

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	おひさまdekiru Kinder		
○保護者評価実施期間	2025年11月10日		～ 2025年12月9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	2025年11月10日		～ 2025年12月9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 2
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童や保護者のニーズに合った支援計画を作成し、職員全員で支援に取り組んでいる。	職員は児童の事を観察し、保護者と定期的に面談を取りながら今の支援内容を共通理解した上で計画を作成し個人課題ファイルに貼り付け内容を確認しながら取組んでいる。	児童の支援内容を、職員全体で把握できるように個人スケジュールボードに今の支援内容を記載する事で職員の意識を高めて行く。
2	保護者が子育ての悩みを相談できる環境を直ぐに提供できる。	職員は日頃から、保護者の表情や言動などを確認しながらまずは一声掛ける様に話しやすい環境を作っている。 参観日週間を設けることで児童の様子を見ていただく機会を設定し、好評を得ている。	懸念事項や案件があれば、職員間で情報共有し話し合いを設け次にどのような声掛けをすればいいのか又は、専門家に繋げるのかを検討していく。
3	児童が楽しいと思えるプログラムやイベントを提供している。	プログラムリーダー、イベントリーダーのもと他の職員と話し合い職員の担当を決め、内容に偏りが出ない様に常に5領域を意識した項目に挑戦している。参加しやすいように視覚支援を使い分かりやすく伝えている。	季節のイベントや地域の活動にも積極的に参加しながら児童が楽しいと感じる取り組みを行って参ります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	プレイルーム内での児童の様子を、もっと保護者に見て頂く仕組み作り。	ご利用時には児童の様子をHUG上で報告はしており、児童の様子を実際に見る機会が参観週間で設けているが、都合が合わない保護者もいる。	利用時のお迎え時間より早めに来ていただき、活動や遊んでいる様子、職員の対応している姿を見てもらい、日頃の様子を見ていただく。
2	児童と保護者と一緒に取り組める活動を設けて行く。	プログラム活動など、ご家庭でも取組める内容も多くあるが何をしているのか分からない事もあり、保護者に周知出来ない。	プログラム活動を行う中で、保護者が参加しやすい参観日週間を継続しながら、取り組んでいる目的などを明確に伝えられる様に努めていく。
3	幼稚園や保育園(所)などと支援内容を共通しながら児童の支援に取り組んでもらう。	幼稚園や保育園(所)と、おひさまとの時間帯が合わないため職員同士で児童についての会議を設けることが困難である。	幼稚園や保育園(所)に事前に連絡を入れ、短い時間でも会議を行う。担任の先生と日時を合わせ共通理解を図る。